

あまのり



一緒になって調理を楽しむ



〒948-01 新潟県中魚沼郡川西町大字水口沢12番地 TEL.0257-68-3111 FAX.0257-68-3828
発行 町長 南雲春雄 編集 総務課文書広報係 印刷 白南風社 (毎月10日発行)

人口の動き
— 1月1日現在 —
男 4,240 (+3)
女 4,313 (-2)
計 8,553 (+1)
世帯数 2,262 (-4)
() は前月比較

川西町農業サミットを開催



農業が抱える課題などを、お互いが共通した認識を持つことが必要と第一回の会議が開かれました

十二月十二日、総合センターで「川西町農業サミット（川西町農業振興会議）」が開かれました。この催しは、わが国の経済社会が大きな変革期を迎え、町農業においても担い手の減少や高齢化の進行により、農業構造の変動に直面しており、地域農業や農村社会の存続も憂慮されることから、今、しつかりとした対応が求められています。このような現状を踏まえ、改めてお互いが共通した認識を持ち、協調していくために、農政情報の伝達を一層拡大し、農業者間の技術・経営向上のための情報交換などが必要となります。その一歩として、自分たちの農業、地域の農業・農村について皆が一堂に会し、話し合うことから始めたいということで、調査結果の報告や事例を発表。当日は、町内外からおよそ百人が出席しました。会議の内容を簡単にお知らせします。

調査結果

◎農地の実態と将来の農業経営に関する意向調査結果

町農林課主事 玉置 賢さん

現在ある十七の生産組合のあり方、再編統合や農業者の育成、農地の規模拡大への展開を策定するため、一、四二五戸を対象（回収率九三・三パーセント）に意向調査を実施。その集約結果をオーバーヘッドプロジェクター（文字や図表などをスクリーンに写し出す投影装置）を用いて説明しました。

将来の農業経営について、経営規模を拡大したいと思っても農地の提供者が周りになく、自分でも見つけられないという割合が多い。反対に、規模を縮小する場合においても農地の借り手、買い手が自分で見つけにくい。これらは農地の利用集積についての課題である。また、西部地域においては現状維持を望む声も多く、その理由とし

て、労力の不足や農業を生きがいとしているという結果が発表されました。

さらに、将来の農地の利用において、西部地域の耕作放棄地およそ四十ヘクタールを、町全体の転作水田として利用できないか調査していかなければならないということが提示されました。



玉置さん

農地の利用集積状況については、東部地域で二十ヘクタールほど規模拡大を求めているが、それに答える規模縮小は三ヘクタールほどで、ほとんど農地の集積が図られていない。また、生産組織については、現状として労働力が確保されていない、経営内容がわからな

いというようなこと。活動の強化としては、担い手の確保、経営能力のある人の育成が望まれているという実態も示されました。

今後、さらなる分析・調査などを進めていきたいと、調査結果を報告しました。

◎良質米生産推進土づくり対策の調査結果

新潟川西農協営農課
営農係長 貴田道雄さん

おいしい米の産地として魚沼米は評価を得ているものの、このように米を安定供給していくためには「土づくり」は重要であり、昨年か二か年かけて、町内のほ場三四七点について、土づくりに必要な土壌の分析を実施、その結果について報告しました。

土壌改良資材の中で、重要になるのが有効リン酸・有効態ケイ酸で、地力の乏しい魚沼地方では、継続的なこれらの土壌改良資材の施用が大切である、ということが発表されました。

●リン酸Ⅱリンは細胞中の核の重



貴田さん

要構成物質であり、細胞分裂の盛んな分けつ期と、でんぷんなどの合成の盛んな幼穂形成期以降に必要である。リン欠乏は茎数の減少や、稲体中アンモニア濃度の増加によりいもち病を招きやすくなる。

●ケイ酸Ⅱイネの表皮細胞に蓄積し、茎葉中成分の十〜二十割を占め、稲ワラにも多量に含まれている。ケイ酸肥料の施用により葉の珪化細胞が増加し、稲体が丈夫になり倒伏に強くなる。

事例発表

◎稲作直播栽培

中魚沼農業改良普及センター

改良普及員 後藤英美さん

下島生産組合

組合長 柄沢和久さん

下島生産組合では、平成七年、八年と無人ヘリコプターによる直播作業を、また、今年から直播専用播種機（側上肥料田植機）による直播の栽培技術に取り組んでいます。今年実施した播種機の実証展示ほについて、その報告がありました。

直播は、種もみを直接ほ場に播くため、水稲作付作業の省力化と低コストにつながり、転作の扱いを受けることができることから、



後藤さん

今後の普及に期待が寄せられているものです。

実証ほでの報告によると、移植時に種子にコーティングを施す作業があり、労力の負担が大きいこと。田面の高低、土壌の硬度、播種深により苗立ちにばらつきが見られ、苗立率が低くなったこと。

茎数の増加が緩慢で、最高分けつ数が移植の二割程度であったことなどが発表されました。

また、経営面からは、移植栽培十アール当たり収量九俵とすると、直播栽培では七・八俵と単純比較ではやや劣る結果となっています。しかし、転作を加味すると、直播率を増やせばそれに伴って利益は増加するという試算が出ており、転作を含めた一農家単位の経営では有利になる。また、転作物に有望なものがなく、調整水田が主



柄沢さん

力となっている今日、一部のほ場では雑草が繁茂し、除草に苦慮しているという面を考えると、労力の軽減につながる。

総合的には、組織運営からすると、一定比率を直播に置き換えると、春作業の労力軽減が図れる。

機械の有効利用が図られ、台数・人員を減らせるなど。個別農家にするコシヒカリの作付けを増やせる。田を荒らさくてもすむなど、メリットも生まれています。

今後、さらに直播の栽培技術を高め、課題を解決することにより、転作への影響を緩和したいと結んでいました。

◎就農を考えた経緯とこれからの農業経営

認定農業者 櫃間英樹さん

櫃間さんは、Uターンをして農業認定者となり、伊友で水稲のほかにスカシユリを作付けする複合経営をされています。

櫃間さんがある本と出会い、魚沼米の評価、おいしい米は財産である、これからはプロが生き残る時代と確信し、就農を考えたそうです。

櫃間さんは、自らが作ったコシヒカリ二キロを三十七人に送付、その見返りという形でアンケートを実施しました。お米を選ぶときの基準や普段食べているお米につ



櫃間さん

いてなど、答えを集約すると、米を選ぶ基準は「味」が最も多く、次いで「価格」となっていることから、米を選ぶ基準は味と価格が拮抗していることを確認。

また、有機栽培に感心がある人が八割もあり、その四割が実際に購入しているということが発表されました。

アンケートの結果として、①川西米の評価が高いことがわかった。②消費者は米を選ぶ際、価格に見合う価値（味）のものを選んでいくようだ。③低価格志向とうまいもの志向に二極に別れている。④「炊き方が難しい」と答えた方が九人もいた。⑤健康志向の現れか、有機栽培に関心が高い。

このことから、▼コシヒカリは、今の品質を維持していかないと、今のような高値で売り続けることはできない。▼コシヒカリ一辺倒でなくともよいのではないか。▼川西でも多収できる品種を選び、低価格で売る。▼有機栽培などを取り入れる。▼米の炊き方を教えるような売り方を考えてみてほしいのでは」と結んでいました。

中山間地域総合整備事業 を導入

—仙田地区—



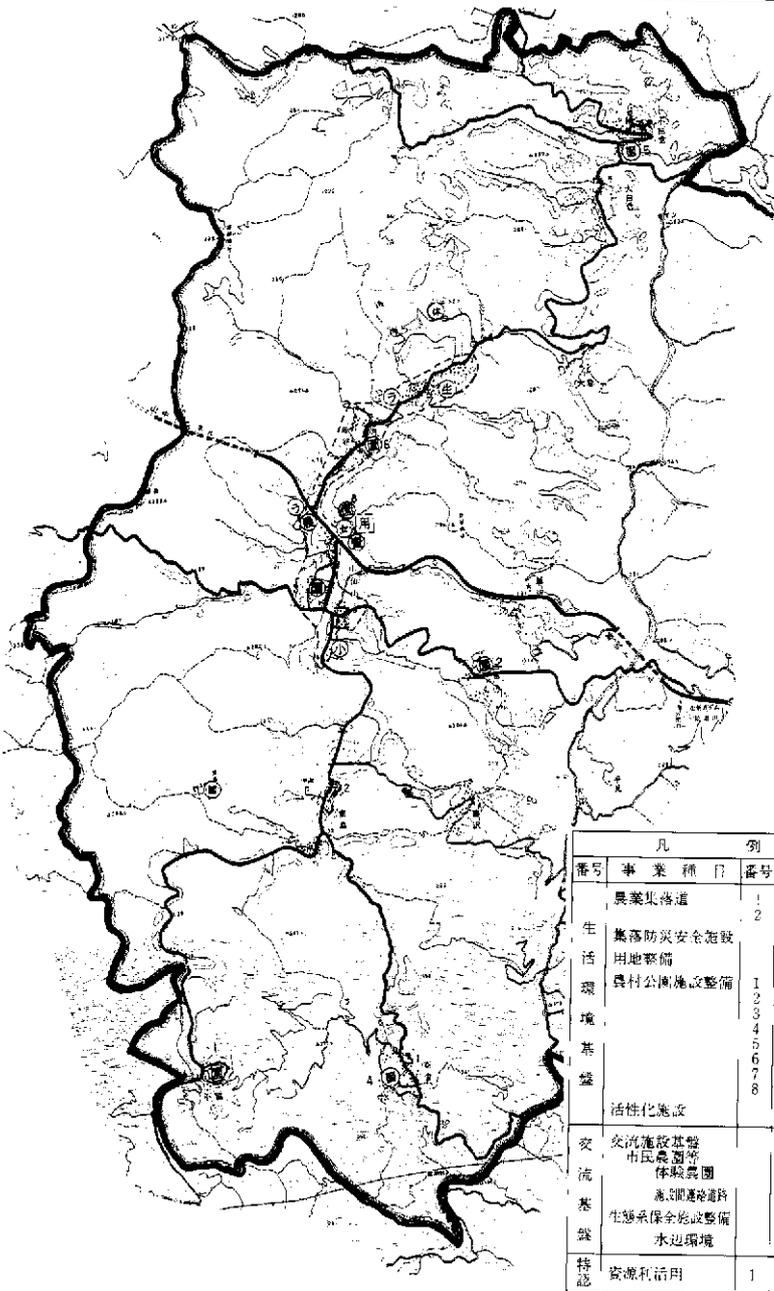
町農業は、昭和四十年代から県営ほ場整備事業、農業構造改善事業などにより農業基盤整備を精力的に実施してきました。しかし、営農形態を見ると、担い手による規模拡大や作業受委託などによる生産組織化が着実に進んでいる東部地域に対して、西部地区においては、旧態依然とした小規模な農業経営であり、これまでの基盤整備の効果が十分に発揮されていません。

これは、西部地域の住環境悪化などによる定住条件の整備の遅れ、地域コミュニティの不足による郷土意識の低下や農業外の所得機会が乏しいことなどが重なり、担い手となる若年層の流出が続いていることに起因しています。

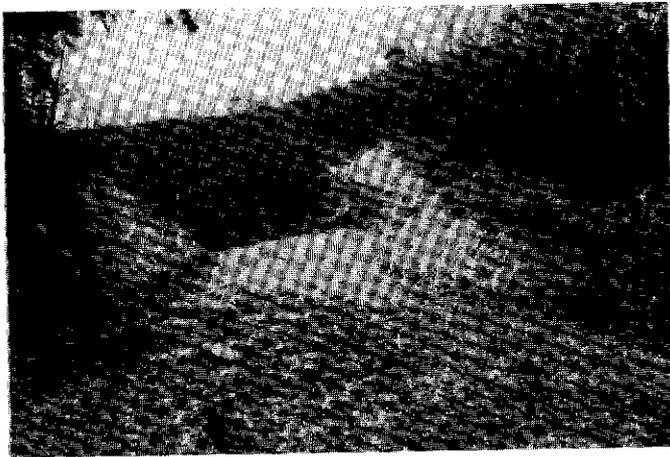
こうした現状を回復するために、住環境の整備や地域資源を活用しながら地域の活力を促し、地域の特性を生かした条件整備をしていくために、平成九年度から仙田地区全域（10集落）を対象に、中山間地域総合整備（生活環境）事業を導入することとなりました。事業の概要を紹介します。

- 規模
総事業費約10億円
- 内容
集落道整備、防災安全施設整備、農村公園整備、活性化施設整備、生態系保全施設整備、資源利活用施設整備など
- 平成9年度事業
・集落道整備
（宗島入村線 一七〇メートル）
・防災安全施設整備
（小白倉消雪パイプ削井工）
・農村公園整備
（赤谷トイレ・東屋ほか）

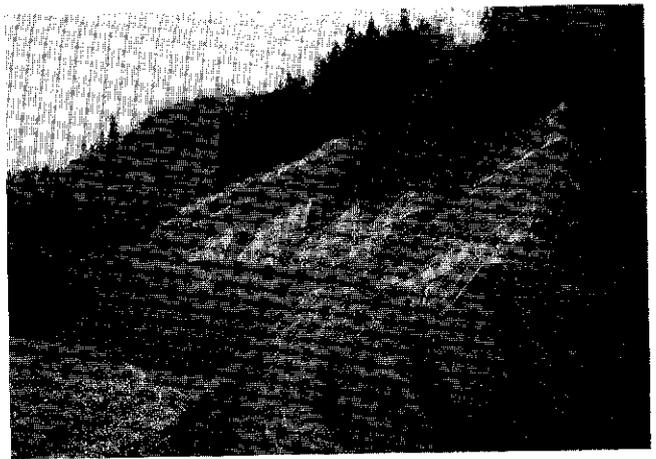
●実施年度
平成9年度～13年度（5か年間）



凡 例	
番号	事業種目
1	農業集落道
2	集落防災安全施設
3	用地整備
4	農村公園施設整備
5	活性化施設
6	交流施設整備
7	市民農園等
8	生態系保全施設整備
9	水辺環境
10	資源利活用



▶ 第一工区
◀ 第二工区



新名所に

中子台地

連絡道

節黒城跡キャンプ場

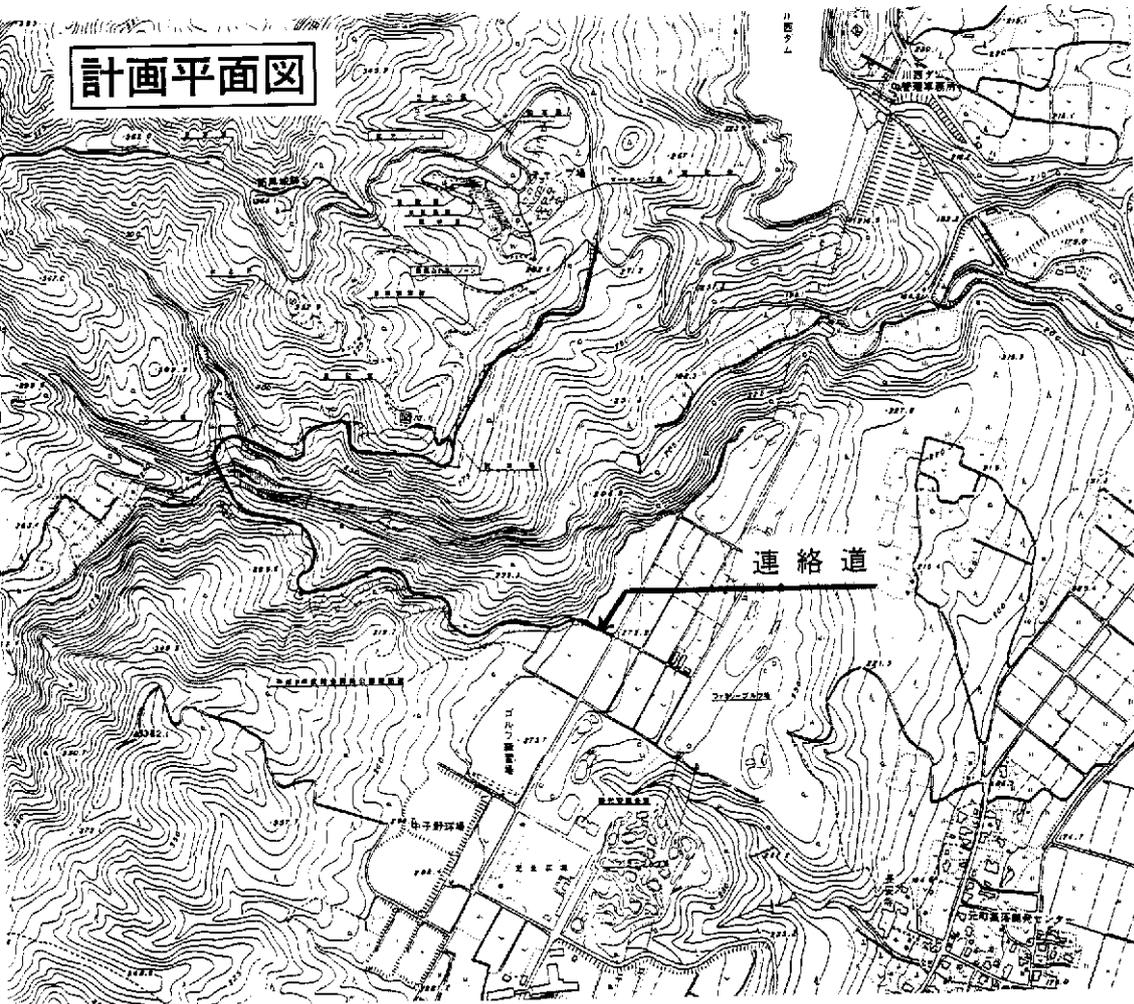
町では、総合緑地公園（ナカゴグリーンパーク・節黒城跡キャンプ場を総称）としての魅力をさらに確立するため、平成九年度に中子台地から節黒城跡キャンプ場への連絡道（総合緑地公園連絡道）の整備を進め、余暇活動の場として多様化するライフスタイルへの

対応に取り組んでいます。この連絡道は、延長一、七〇〇メートル、幅員三・〇メートル（全幅四・〇メートル）、本工事費一億六、五九〇万円で、現在、六〇パーセント程度の進行となっています。

なお、平成十年度以降、今後、

- 総合緑地公園として整備をする事業としては、
- バンガロー増設 5棟
 - 遊歩道整備 1、500㍍
 - 東屋 3棟
 - 親水池整備 1か所
 - ミズバショウ・ショウブ園新設
- などが計画されています。

計画平面図



議会報告

十二月十八日から始まった第九回川西町議会定例会は、十九日に全日程を終え、閉会しました。

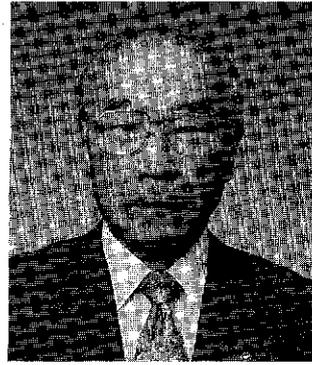
十八日は、十一人による町政に対する質問があったあと、「移動通信中継施設設置の請願」が提出され、所管の常任委員会に付託されました。

十九日には、「川西町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」ほか七件の条例改正を原案とあり可決。次に、十日町地域広域事務組合規約の変更を原案とあり可決。次いで、平成九年度川西町一般会計補正予算（第六号）及び三つの特別会計補正予算と水道事業会計補正予算を原案とあり可決。一般会計補正予算においては七百二十万円の減額で、総額を五十三億八百万円としました。続いて、町道路線の変更を原案とあり可決しました。

さらに、「急傾斜崩壊対策事業の充実・強化に関する意見書」ほか一件の意見書を原案とあり可決しました。

脚下照顧

平成十年元旦



川町長南雲春雄

今年は寅年。虎は干支の三番目、食肉目ネコ科の動物です。ライオンが「アフリカの百獣の王」なら、さしずめ、虎は「アジアの百獣の王」といってもいいでしょう。

虎は「とむさびたひつひの強揚へ、昔から親しまれています。皆さんよく知っている「虎の子」は、大切なもの、秘蔵のものといふこと。

「虎穴に入らずんば虎児を得ず」も、虎の子が貴重なものという意味から、危険を言さなければ（虎の住んでいる穴に入らなければ）成功は得られないということですね。

町には寅年生まれの方が七百十八人（平成九年十一月一日現在）おいでで、人口比は約八・四パーセント。左の表は生まれ年別にま

とめたものです。

一月はお酒がいつばい入る月、酔っぱらいの大トラにはならないよう注意したいものです。

十一月二十四日・二十五日に役場においでの方の中から、八人の方に突然「インタビュー」をお願いし、お答えいただきました。ご協力ありがとうございました。

（読み）きやつかしょうこ
 （意味）自分の足もとに気を配ること。自らを反省せよという戒め。「脚下」は足もと、「照顧」は、気をつけるの意。

と
42戸、耕地
馬ゾリを試 上野村に至る間)
生。
式を挙行。 頭を発表。



高橋美也子さん（赤谷）
 〈昭和48年、丑年生まれ〉
 あまりいいニュースのない一年でした。今は、子供を連れて海外にも、デイズニerlandにも行きたい、そんな夢を描いています。

町に、ベビールールや子供が遊べるスペースのあるお店があったらいいな。



岩坂けい子さん（野口）

〈昭和22年、亥年生まれ〉
 去年、初孫が誕生し、大変喜んでます。あるテレビ番組で中国に魅せられました。今年は無理かもしれないけど、一度は行って見たいと思っています。



中條一芳さん（岩瀬）

〈昭和32年、酉年生まれ〉
 去年、第五子が誕生し、わが家は九人の大家族となりました。毎日毎日大変ですが、明るく楽しい生活を送りたいと思っています。

町内にも、雨でも子供が遊べる施設や場所がほしいと思います。



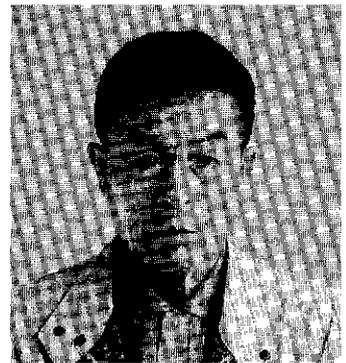
平成十年元旦

謹んで新春の 御祝詞を申し上げます

川西町議会議長

南雲 教

生まれ年	男	女	計	主なできごと
明治35	0	3	3	上野郵便局ができる。
大正3	18	30	48	8月14日、大豪雨相次ぎ橋村で浸水30町歩流出。淡海川大洪水。
” 15	73	63	136	冬季間の定期交通確保を目指して、運転する。(浅川原から吉田村を経て千手村・
昭和13	58	61	119	千手発電所の工事が8分どおり完成。
” 25	85	72	157	松葉沢ため池が完成。
” 37	49	36	85	農業共済事業を町に委譲。 日本最初の消防トレーラーが町に誕
” 49	36	41	77	総合センター開館。 国道252号越ヶ沢トンネル完成、開通
” 61	52	41	93	合併30周年記念事業を実施。川西音 妻有大橋着工。
計	371	347	718	川西町史及び合併記念誌より抜粋



高橋義平さん(三領)

〈昭和10年、亥年生まれ〉

去年は、町内・家族が心を一つにして、願いごとを一つひとつ実現できた年。今年も温かい思いを大切に、「電話教育相談」に取り組みたい。美しい自然環境の中で、三世代のふれあいの場と時間が、いっぱいあったらいいな。



大久保克美さん(野口)

〈昭和42年、未年生まれ〉

去年は、下の子が何度も入・退院を繰り返して、家族全員が心配の絶えない一年でした。今年はその心配が少しでも減ってくれる年でありますように。町全体で協力し、観光の目玉になるイベントづくりができるといいなと思います。



小林徳夫さん(中屋敷)

〈昭和19年、申年生まれ〉

去年は、いろいろな面で我慢の年でした。でも、家族全員健康で過ごせたことは何よりです。今年も家族で北海道旅行、なんていうのもいいですね。町に合った温泉の整備・利用(温水プール)なんというのも考えてみては。



清水 正さん(木島)

〈昭和17年、午年生まれ〉

いろいろとやりたいことがあったが、あまり実行できないで過ぎてしまった一年でした。今年、夫婦でのんびりと北海道旅行(希望)が叶うよう頑張りたい。文化会館は早くできてほしいと思います。



小林繁子さん(高原田)

〈昭和22年、亥年生まれ〉

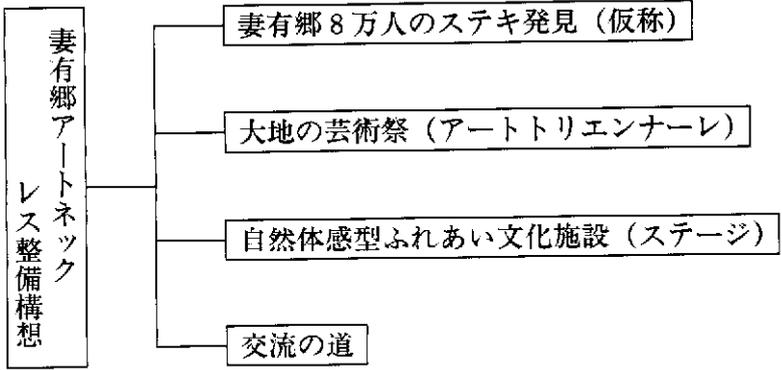
去年、長年の専業主婦から脱皮して新しい仕事を始めました。ピアノにも挑戦しています。五十歳からの再出発ですが、それなりに充実しています。今年も、家族や知人が健康で過ごせますように。町の若い人たちの活躍に期待したいと思います。

自らが進める地域づくり

十日町地域ニューにいがた

シリーズ 里創プラン ③

「妻有郷アートネットワーク整備構想」は、およそ十年をかけて展開される計画となっており、今回は、前回ご説明したこの構想の柱である四つの事業の中から、二つについて詳しく説明いたします。



◎妻有郷八万人のステキ発見 (仮称)

この事業では、妻有郷の魅力を再発見するため、一般公募による写真を中心としたコンテストを平成十年度に実施します。

妻有郷の歴史や風土、文化や自然の美しさ・魅力を改めて見直す機会を通じて、私たち自身がふるさとへの愛着や誇りを再認識し、私たち全員で「妻有のステキ」を世界に向けてアピールすることを目的としています。

具体的には、地域の自然、風景、文化、伝統、風習、日常生活などの中から様々な魅力を発見してコンテストに応募してもらいます。また、地域の様々な物産や資源をアイデア豊かな賞品として用意することで、妻有の魅力を外内に発信していきます。

審査には写真の専門家をはじめ、妻有の応援団として各分野から結集した著名人があたります。コンテストへの応募を通じて訪問者の増加が期待できるとともに、発見されたステキは地域の財産目録と

しても活用していきます。

「ステキ発見」は、「大地の芸術祭」を圏域の全員が一体となって実施するための準備プログラムでもあり、イベント運営のノウハウを蓄えるとともに、お互いの理解や結束力、連帯感の強化を図るものとなります。

◎大地の芸術祭 (アートトリエンナーレ)

妻有郷の豊かで美しい自然を舞台にして、世界のトップアーティストによる野外芸術祭を三年ごとに

開催します。第一回目は、平成十二年(西暦二十年)に予定されています。広域組織で取り組まれる野外芸術祭は、日本では初めての試みとなります。

「大地の芸術祭」に参加するアーティストは、妻有の自然や生環境を生かし、環境と景観を整え、人間と自然の新たな交流を生み出すような芸術作品を創造することを目指しています。これにより、この地域が持っている大自然の魅力と大切さを再認識し、自然豊かな妻有郷のイメージを世界に向けて発信していきます。



11・28開催された「アート・ネットワーク整備構想」の川西地区説明会

「大地の芸術祭」は、「ステージ」や「交流の道」などの整備事業と有機的な連携のもとに実施されます。また、芸術祭の開催は、交流人口の増加を図り、広域の景観や環境の質を高めるとともに、国際交流や地域の話題づくり、芸術と地場産業のタイアップ、新しい産業の想像、情操教育の場の創出など、様々な展開の可能性を持っています。

※ご不明な点やお問い合わせは、十日町地域広域事務組合企画振興課 企画振興係 (☎5712637)へ。

賢い農村婦人を目指して

12月5日、総合センターで「夢プラン川西セミナー(北村フミ子代表・7団体で組織・会員・39人)」が開かれました。この催しは、農村婦人が豊かな中長期の生活設計づくりを進める活動として展開している、年間5回の活動の一つとして実施されたもの。今回は、中魚沼農業改良普及センター関沢課長のお話し、ヘルシーフードづくり、十日町税務署相馬統括調査官による納税講座が実施されました。



「わが家の中長期生活設計づくり」で、話に耳を傾ける会員

川西町への歩み (23)

岩瀬 金子 幸作

吉田に合併申し入れ

昭和二十九年七月十日、千手町の首脳が吉田村の議会議員を招いて行った合併懇談会で、千手町長と町議会議長は次のとおり意見を述べて同村に合併を申し入れた。

千手町長 (中村壮吉)

世論は、千手町が十日町市に合併したい腹だと伝えているが、現段階では全く考えていない。議会も世論も大千手町建設の意向であり、今回正式に合併をお願いしたい。上野村とはすでに話が決まっております、できうるならば今年中に合併を終わりたいと思っている。

十日町市との合併は、将来その

可能性は強いであろうが、口下のところはなんともいえない。

千手町議会議長 (中村良一)

千手町が態度を明確にしたのは去年だ。吉田村との合併が実現すれば交通・教育・行政等あらゆる面で吉田村と上野村の方たちに不便を感じさせない腹案をもっている。一例をあげれば、新設の町には環状線の道路を設けて町営バスを運行してでも、今後の問題となる交通の悩みは断固解決する。

千手町長と議長の、この真摯な

合併申し入れにもかかわらず、吉田村の議員衆は賛成、反対の態度を明確にしないまま散会した。

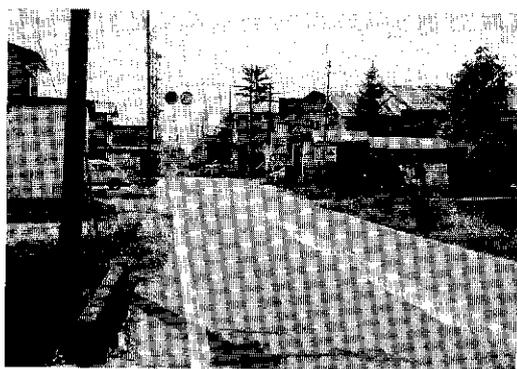
吉田は十日町に走る

八月二十一日、吉田村長、議長ほか三人の同村代表者は、十日町市役所に中山市長、村山、樋口両助役をたずね、吉田村の十日町市への吸収合併を申し入れた。

吉田村が十日町市との合併に踏み切った裏付けは、吉田村の集落ごとの世論調査が次のとおりであったからである。

- 十日町市合併案賛成 八二%
- 千手町合併案賛成 九%
- どちらでもよい 九%
- 千手町と家並みが連なっている

貝喰橋 (写真手前) を境にして隣り合わせる稲葉地区



吉田村稲葉地区は、児童、生徒の通学、灌漑用水の使用慣行、十日町市へ合併すると税金が高くなる、の三点を理由に、吉田村が十日町市に合併を決めてからも、千手町への分村を強く望んで関係市町村に分離陳情書を提出していた。このため、十日町市と吉田村の議会は、合併の付帯条件として、「吉田村が十日町市と合併後、稲葉住民の過半数が十日町市から分離したい旨の意思を表示し、かつ、この地域について関係市町村の受け入れ態勢ができた場合は分離させる」ことを議決した。

吉田村が十日町市へ合併を申し入れたことに對し、中村壮吉千手町長は次の談話を発表した。

中魚沼郡の合併委員会案に基づき川西地区の合併計画を修正せざるを得なくなったのは遺憾だ。直

ちに上野村と話し合った結果、上野村では、上野村と千手町だけの二か町村合併なら大賛成ということであった。とりあえず、上野村との合併を促進したい。なお、吉田村の稲葉集落は千手町との合併を希望しており、千手町でも受け入れることに決めている。

千手中へ通学拒否

吉田村が十日町市と合併した翌日、千手町長は十日町市を訪れて稲葉の受け入れを申し入れたが、十日町市長は、「川西郷の合併ができ、新しい町が稲葉の受け入れを希望した時のことは考えているが、現段階での個別申し入れには応じられない」と拒否した。

この日、稲葉地区の中学生三十四人は、「稲葉が十日町市から分離しても、千手中学校へは絶対に通学しない」と決議した。この決議に驚き、動揺した地区のPTA、青年団、婦人会は、「千手に合併か、それとも十日町か」について改めて協議し、稲葉地区市民大会は満場一致で十日町市にとどまることを決議した。中学生の通学拒否問題がおきたことを契機に、成り行きが目まされてきた千手町と稲葉地区の合併は実現しないまま終止符をうったのである。

稲葉村と沖立村は、元禄六年(一六九二)におきた刈干場の争いで仲たがいでいたが、この合併に期待して三百五十年ぶりに和

解した。その直後の破局で、双方に少なからずしこりを残すことになった。

川西五町村の合併か

吉田村が十日町市に合併を申し入れたことから、中魚沼郡町村合併促進委員会は合併計画を一部変更することにした。これについて新潟日報(昭和二十九年九月二十日号)は次のように報じている。

中魚の町村合併促進委員会では吉田村が十日町市へ正式に合併を申し込んだことから、同委員会打ち出したブロック合併案のうち川西案が一度崩れた形になったので、十八日午後一時から地方事務所委員を開き、対策を協議の結果次の二案を打ち出し、二十一日午後から地方事務所関係町村長と議長を招いて同案をはかり、甲乙いずれかに決定、二十五日の県審議会に郡の修正答申案として提出する。

△甲案 川西地区では従来の原案から吉田村を除いた千手、上野、仙田の三か町村合併とし、北部地区は原案通り橋、真人、岩沢、下條の四か村合併案とする。

△乙案 川西地区は千手、上野、仙田、橋、真人の五か町村の大同合併、北部地区のうち吉田、下條、岩沢は十日町市へ合併する。

なお、県審議会には九月二十二日に乙案が答申された。

引用 「新潟県市町村合併誌」

お知らせコーナー

講師募集のお知らせ

第15回全国都市緑化にいがたフェアでは、「花」や「緑」に興味のある方を対象に体験講座、デモンストレーションなどの体験型催事を実施します。

この「花と緑の体験型催事」に参加して下さる講師を募集しています。

●グリーン フラワーワークショップ

フラワーデザイン、押し花など、花やグリーンを使った作品製作の教室

●ガーデニングスクール

コンテナガーデン、生け垣作りなど、ガーデニング技術の教室

●ネーチャースクール

創作教室、環境学習など、子供を対象としたアウトドアの楽しみ方を学べる教室

◎申し込み締め切り 1月31日
◎参加申込書は、役場建設課にあ

カメラさんぽ



12月14日、総合体育館で開催された町民バスケットボール大会。12チームが参加しました。結果は次のとおりです。

- 優勝 アシスト
- 2位 長形3号
- 3位 ゴン太くんノ

年末・年始に発生しやすい犯罪や事故を未然に防ぐため警察署員を中心に特別警戒を実施。町からも防犯協会の関係者が役場前でチラシを配り、呼びかけをしました(12月12日)



山野田原住宅団地が 新町内名称でスタート

今まで、発電所通り東の町内に入っていた山野田原住宅団地が、1月から町内区域の名称「南台」という呼び名でスタートします。世帯は、22世帯となっています。

ります。
◎詳しくは、実行委員会事務局
(025-285-5511
内線3354)へ。

新しい嘱託員...①

1年間お世話になります。

平成9年12月26日届出(敬称略)

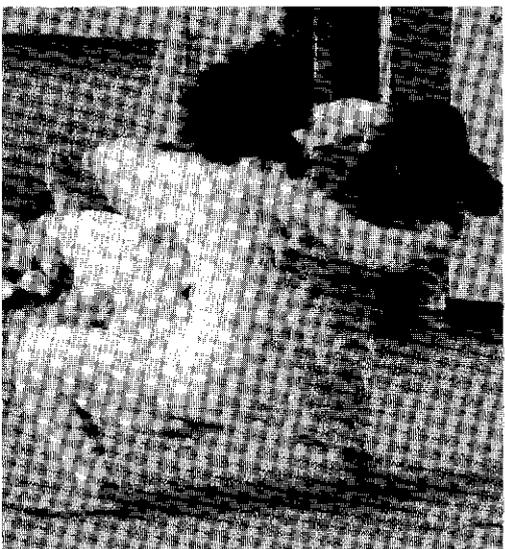
中島町	阿部	巖	伊	友	檀	間	公	男
発電所	田川	大	高	田	小	川	則	子
南台	中	健	坪	山	中	村	武	男
栄朝	田	次	霜	条	高	橋	泰	一
四上	田	春	鶴	吉	田	村	美	郎
中	小	市	上	野	根	津	精	夫
田	喜	人	元	町	渡	辺	秀	一
神	平	実	木	落	田	口	徳	博
学	星	晴	寺	崎	山	崎	幸	夫
中	相	利	塩	辛	藤	卷	邦	保
寺	関	作	仁	田	小	幡	一	章
木	星	工	野	口	滋	野	隆	武
沖	丸	信	四	歩	本	山	喜	郎
	清	一	原	田	根	津	久	一
	酒	春	大	倉	高	橋		
	星	雄	小	倉	片	桐		

12月15日、橋保育園で開かれたクリスマス交通安全ミニコンサート。これは町内の駐在さんや安協女性部が主体となって取り組んだもの。ドラエモンやトトロの皆さんがよく知っている曲などが披露され、園児も大喜びでした



12月7日、武道場で開かれた町民柔道大会。5つのブロックに分かれ熱戦が繰り広げられました。各ブロックの優勝者は次のとおりです。

- ・小学校1・2年生の部 小野塚裕君(四郎兼)
- ・ // 3・4年生の部 田村貴成君(仁田)
- ・ // 5・6年生の部 高橋保弘君(田中町)
- ・ 中学校男子の部 金子実寛君(岩瀬)
- ・ // 女子の部 高橋美希さん(坪山)



善意

一般寄付

滋野定良(野口)二十万円
佐藤信一(小脇)三万円

(敬称略)

表紙の写真

十二月二十一日、川西高校調理室で、「ファミリークッキング」が開かれました。これは、町教育委員会・公民館が開催している講座の一つで、小学生から高齢者までが対象。管理栄養士の関タカ子さんを講師に、簡単にできるおかずやふるさと料理、おやつなど、大人と子供が一緒になって調理や試食を楽しんでいます。

今回は、八回シリーズの最終回。およそ三十人が集まりました。時節柄、送っていたいたり、店頭にいっぱいならんだりする新巻鮭。塩鮭を用いた調理が中心となりました。「鮭のけんちん蒸し」「塩鮭のマリネ」「新巻鮭のうの花和え」「たま豆腐」「りんごケーキ」の五品がメニューです。

お正月、都会から田舎へのお土産の代名詞にもなっている新巻鮭。もらいすぎて始末に困ったことはありませんか? そんなときのために、いろんな調理方法を習っておくことは何かと便利です。

かわい

高崎正風選

新春の切身大きく年の膳
初雀小枝の雪を散らしけり

小白倉 江口みゆき

山里のちらちら雪に灯りけり
昼風呂に正月らしき山家かな

元町 田畑 吉治

初風呂や孫と背中を流し合ふ
読初の孫が絵本を読みくるる

高原田 引間 子舟

行く年の積み重ねたる句集かな
初日の出杜の深さへ透きにけり

霜条 星名 星光

地藏尊大き頭巾の煤拂ふ
新築の祝ひ重ねし年暮る、

寺尾 白井すみい

初夢の二人目の孫叶いけり
日曆の一のめでたき年始め

野口 村越 由喜

我が庭の水仙二本早や咲きぬ
綾瀬市 野沢ますえ

障子貼る二間のノルマいただけり
元町 金子 鉄平

大樺裸木となり月澄めり
八王子市 松浦 サク

クルミ割るゆとりありけり大晦日
高倉 斎木 和人

にこやかな笑みを映して初鏡
霜条 大海 白涛

成人となる子の年の明けにけり

伊勢原市 金子 桂吉

御手洗に茜さしけり初詣

上町 高橋 願似

恙無き暮しを謝して初詣

小白倉 田中 優美

我が庭の白寒菊の咲きにけり
根深 丸山 朝子

初市の祝儀相場もままならず
練馬区 須藤 遊人

単線の遮断機おりて山眠る
足立区 涌井ハル子

定位置に掛けてきまりし初暦
山野田 藤田ひろ志

着ぶくれて行けば友また着膨れて
新町新田 若山 向山

職引いて年ごと減りし賀状かな
野口 野沢 寅生

宅配便心待ちして年の暮
赤谷 小林 哲

まだ入らぬ人にと二度のゆず湯かな
野口 村越 幸

掛け替えてめくる日待つ新暦
大倉 中条 石平

寒椿かむりし雪を手で払う
中仙田 樋口タマエ

霧雨に煙る那須高原を行く
浦和市 登坂 博史

土産にと小犬連れての帰省かな
野口 五十嵐トラ

幼学の孫も帰省やみそかそは
田中町 石沢 澄代

休日救急医

1月11日	庭野医院 (寿町)	☎ 52-2711
15日	大坪医院 (四日町)	☎ 57-6100
18日	富田医院 (神明町)	☎ 52-3269
25日	池田医院 (本町西)	☎ 52-2581
"	津南病院 (津南町)	☎ 65-3161
2月1日	川西町診療所 (高原)	☎ 68-2034
"	上村病院 (中里村)	☎ 63-2111
8日	大熊内科医院 (山本町)	☎ 52-7066
11日	山口医院 (袋町中)	☎ 52-2174

冬本番—カゼにご用心!

寒い外と暖かい部屋を行き来することが多いこの時期、空気の乾燥も加わり、カゼをひきやすくなります。大人は一年に、平均二回カゼをひくとの調査結果があり、ほとんどの人が毎年カゼをひいてると言ってもよいでしょう。カゼの原因は九十割以上がウイルス感染によるもので、その種類は二百種以上とされています。これらのウイルスを退治する薬はまだ無いのが現状で、自分の持っている免疫力が一番の武器になります。

カゼはひき初めに治してしまふのが肝心です。鼻水・くしゃみ・のどの痛み・寒気などが出てきたら「安静」「保温」「栄養」で免疫力を高めることが大切です。○安静—横になって休むのが一番。無理をすると長引きます。○保温—布団をしっかりと掛け、部屋も暖かくして休みます。空気の乾燥に注意をしましょう。○栄養—消化のよいものを温かくして、食欲のない時は果汁やのどに通やすいものを取ります。他に水分を十分補給すること。タバコは吸わないことも大切です。また、カゼをこじらせないように、三十八度以上の熱が続いたり、症状が悪くなったりしたり、発しんやむくみなどの症状が出たら早目に医師の診察を受けましょう。ただし、赤ちゃんや妊婦さん、高齢の方は、初期の段階で受診される方が安心です。

一方、今年もインフルエンザが流行する時期になり、香港では新型のウイルスも出てきているようです。毎年流行を予測してワクチンが作られていますので、子供さんや高齢の方は予防接種を受けておくとよいでしょう。(個人差や予測がはずれることもあり、百割効果があるとは言えません。)

カゼは万病のもとと言われ、他の病気の引き金となったり、持病を悪化させたりしたり、高齢者では寝たきりにつながることもあります。日ごろから体力をつけ、こまめにうがいをし、カゼを寄せつけないようにしたいものです。

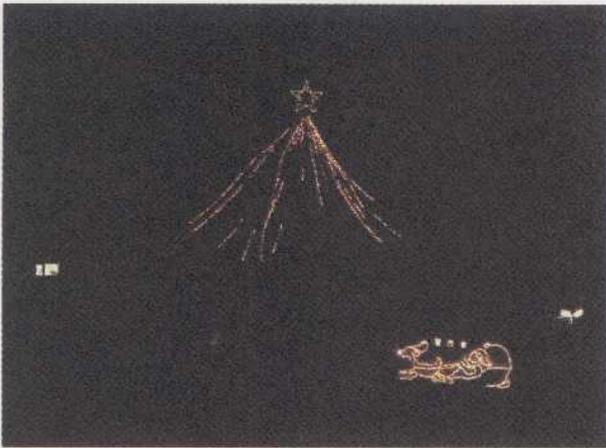
カゼとインフルエンザの区別の目安

	普通感冒	インフルエンザ
発病の状態	ゆっくり起る	急激に発病、全身症状を伴う
寒 け	軽い	強い寒気
熱	比較的低い	38度-39度の高熱
頭 痛	軽い	強い
喉痛、関節痛	あっても軽い	強く痛む
せき・鼻水	最初からある	1-2日たってから
倦怠感	軽い	強い
肺炎合併症	幼児や老人以外はまれ	肺炎になる率が高い

戸籍の窓から

うぶ声—おすこやかに

大津	渡辺	鈴木	中条	小川	数藤	田中
省吾	陸	響日	大貴	雄大	翔	良祐
真由美	千雪	紀子	さち子	恵美子	奈美	知恵子
操	卓也	準一	芳岩	清和	美冲	勝一
下平新田	仁田	新町新田	瀬	下平新田	立	発電所通東



イルミネーションが心を和ませてくれます

地域のイルミネーションが点灯

中仙田百円会（小林和人代表・会員55人）では、地域のふれあいや活性を図るため、平成6年から「イルミネーション（電灯を用いた照明）事業」を実施しています。今年も12月1日点灯、31日まで地域の人たちや通行する皆さんの心を和ませています。



平野 義一 79 (市郎) 上町
 窪田 ハツ 80 (英男) 伊友
 田村 福平 81 (允伸) 鶴吉
 南雲 エト 85 (本人) あかね園
 渡辺 ヨキ 88 (正彦) 鶴吉
 佐藤 トメ 90 (信一) 小脇
 井口 定芳 93 (一夫) 仁田

(12月1日〜26日届け出分)

昇天—ごめい福を祈る

ちいさな展覧会

113

仙田小学校



「クリスマスツリー」
4年生 協同作品



「陶芸」
6年生 登坂葉月さん



「お面」
6年生 樋口未央さん



「お面」
3年生 樋口翔太くん



「陶芸」
6年生 樋口未央さん

(2月号は川西中学校です)



「陶芸」
6年生 川崎真理さん

「メリークリスマス」
なかよし学級 左から
とさかみつよしくん
しげのまこさん
とさかよしひでくん

